

日々の念仏

6組 法藏寺 小林 宣正

お参りの時には手を合わせて念仏をお称えさせていただくけれども、それ以外は普通の生活をしていて良いものか。法要や墓参りの時は念仏を称えやすいかもしれませんが、それ以外の私生活の中で念仏されている方はどれ程みえるでしょうか。このことについて、法然上人や蓮如上人のお言葉を拝読していると日々の念仏の大切さが改めてしられます。

蓮如上人のお勧めになられた念仏とは御文の「ねてもさめても」の言葉に代表されるように一日中称えるお念仏であり、法然上人にしても念仏における心構えとして四修(恭敬修・無余修・無間修・長時修)を挙げられ、その中の無間修では怠ることなく念仏を相續することが肝要であると言われます。また門徒の方には「日課一万遍」として一日をかけて念仏を称えることを勧められます。

私の自坊の手水場の石には「洗除心垢」という言葉が石に刻まれています。これは佛説無量寿経の下巻に出てくる言葉ですが、心の垢を洗い除くという意味です。それでは、心の垢とは何かといえ、浄土真宗ではその代表として三毒の煩惱としての食欲と瞋恚と愚痴がたびたび取り上げられます。

法然上人は、その妄念について、「人は一日の内に八億四千の思いが湧き起こり、その一つ一つがみな、三途(地獄・餓餓・畜生)に堕ちる行いである」というある經典の言葉を引用され、そして「妄念や雑念が湧き起ころうとも顧みず、また、心が散り乱れたり、清らかでなくてもそれを問うことなく、ただ口にお名号を称えなさい。もししっかりと念仏を称えれば、そのお名号の功德として自ずと妄念が止み、散り乱れる心が静まることでしょう。さらに、身・口・意の三業が自然と調えられて、浄土往生を願う心がおのずから湧き起こってくることでしょう。」と答えられます。

私たちは普段毎日風呂に入り体の垢を落とします。車に乗っている人であれば時々洗車をしなければ、その垢は車にこびりつき頑固な汚れとなってしまう。日々わき起こってくる妄念は止めることができませんが、念仏を生涯称え続けていくということが大切なのではないのでしょうか。